2024 年度　地域子育て支援事業報告

１．はじめに（概況）

2024 年度、当乳児院では、地域における子育て支援の拠点として、ショートステイ事業および CoCo 広場（親子支援事業）を中心に、妊娠期から子育て期まで一貫した支援体制の構築に取り組んだ。

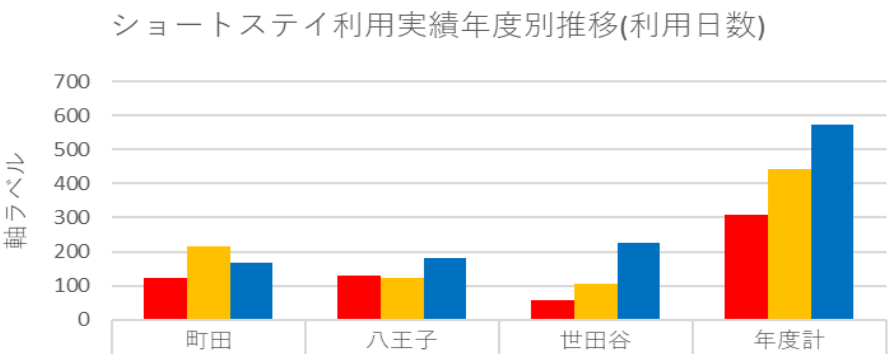
改装を終えた B 棟 1 階でのショートステイ本格運用開始により、利用者の増加とともに保護者との関わりが深まり、「安心・安全」を最優先とした支援の提供に努めた。また、週 2 回の CoCo 広場では、育児講座やイベントを通じて地域の親子が集い、交流と学びの場として定着している。CoCo マタニティサロンは継続的に開催しているものの、初産婦の参加が得られておらず、今後の課題と捉えている。

運営面では、各自治体や関係機関との連携、職員間の情報共有体制の整備、業務の見直し・標準化などを進め、支援の質と効率の向上に努めている。引き続き、多様化する地域の子育てニーズに応じた支援を充実させ、親子が安心して過ごせる居場所づくりを目指して取り組んでいく考えである。

地域で子育てに不安や負担を感じている家庭には、地域の家庭支援専門相談員や心理療法担当職員が訪問し、育児手技の伝達や相談に対応できるよう町田市子ども家庭支援課と共に該当ケースの検討を行っている。

心理療法担当職員は、自立援助ホームへの施設訪問（月 1 回程度）や、里親支援専門相談員と共に里親宅家庭訪問を実施している。また、ひろばやショートステイを利用する保護者からの要望に応じて、発達に関する相談にも対応している。

２．ショートステイ事業



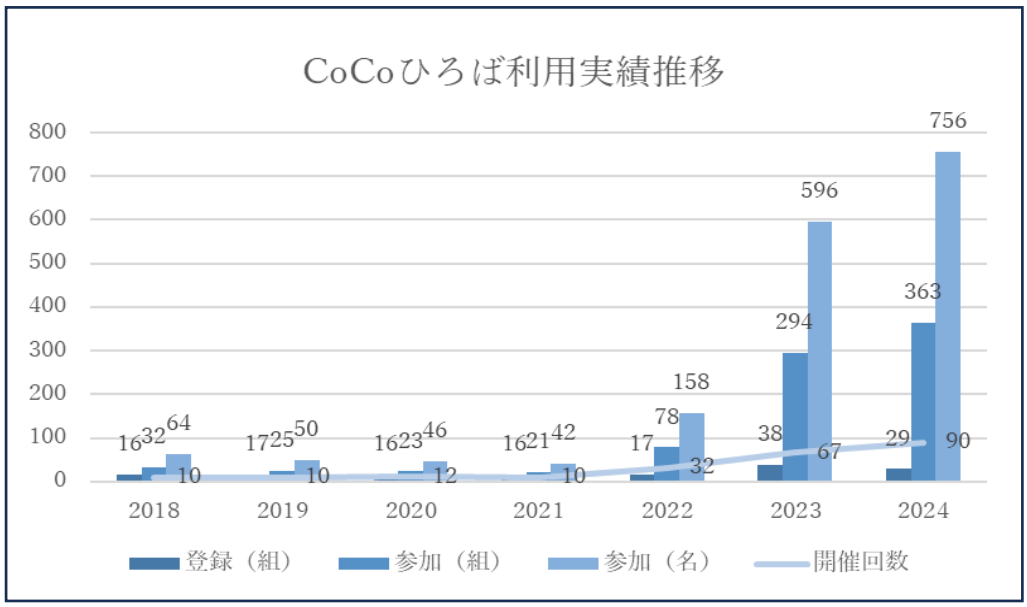
	町田	八王子	世田谷	年度計
2022年	124	130	56	310
2023年	215	122	106	443
2024年	166	182	225	573

（前年度比）2022 年度　172.2%up
2023 年度　142.9%up
2024 年度　129.3%up

昨年度末に改装を終えた B 棟 1 階の居室において、ショートステイの本格運用が開始された。職員の配置換えに伴い、メンバーの大幅な入れ替えがあったが、「安心・安全」を最優先に、ホーム職員とショートステイ担当職員が連携し、助け合いながら職員育成と円滑な運営に注力した。

利用者のリピーターに加えて新規利用者も増加し、関係者の見学対応も重なったことで、慌ただしい日々が続いた。送迎は居室前の「キリン室」で行う体制とし、保護者が子どもの様子や感情の動きを間近で感じることができる機会となった点は、有意義であった。
高月齢児の中には、他児のお迎え等によって情緒が不安定になる場面も見られたが、その都度丁寧に説明を行い、気持ちの切り替えを支援することで、不安な気持ちを受けとめ、寄り添う姿勢を大切にした。

３．CoCo 広場（親子支援事業）



週 2 回の定期開催を継続しながら、事故予防や幼児食をテーマとした育児講座、クリスマス会などのイベントを実施した。定期的な活動に加えて新たな取り組みにも積極的に挑戦し、事業内容のさらなる充実を図ることができた。

スヌーズレン、プラネタリウム、ブラックパネルシアターなどのイベントは乳児院の子どもたちにも楽しんでもらうことができ、また、乳児院主催のアンパンマンショーには地域の親子も参加することができた。これらの活動を通じて乳児院との連携を深めつつ、事業の幅を広げることができた。

「ひろば」は親子のコミュニケーションの場として定着しており、大人同士の会話が自然と生まれる中で、子どもたちも安心して遊ぶ姿が見られた。定期的に新しい玩具を購入するとともに、ボランティアによる手作り玩具の充実も図り、遊びの幅が広がったことで、毎月30組を超える親子が訪れるようになっている。

他のひろばの見学は実施できなかったものの、新任職員を中心に地域支援研修に参加し、支援の意義について理解を深めた。利用者からは、複数のひろばを使い分けていることや、交流を通じた関係づくりの様子が聞かれた。こうした地域の保護者ニーズを把握し、子育ての不安や疑問に応える育児講座も継続して実施することができた。

CoCo マタニティサロン

妊娠期からの切れ目のない支援を行うため、毎月第 4 木曜日に月 1 回開催した。別日を設けず、ひろば開催日にプレママと地域の親子が一緒に過ごせるような場所を提供した。ひろば参加者にはお友達と一緒に来ていただけるよう促したり、地域の産婦人科やスーパーに掲示物やリーフレットを置かせていただきながら広報活動を行った。

ひろば参加親子の中で第二子妊娠中の経産婦の利用はあったが、初産婦の参加は 0 人であった。地域の連絡会で情報収集したところ、近隣で案内している産前産後イベントへの参加はほぼないようであった。

今年度も活動の成果は得られなかったが、課題として周知方法の問題や利用者側の“乳児院”という場所への抵抗感などが考えられる。引き続き CoCo ひろばと連携し取り組んでいく。

４．運営

【支援体制の構築】

利用に際しての些細な疑問や確認したいことがあった時には、担当職員間で相談してから必要に応じて各自治体に連絡を行い、連携を図りながら子育て支援に必要な情報交換を行った。その都度情報共有を行うことで、安心・安全な運営につなげることができた。

【地域との連携】

八王子市・相模原市の子育て広場担当部署に連絡を取り、連携の可能性を探った。八王子市は、連携の可能性が薄い感触であったが、相模原市は各広場に直接関わるよう勧められた。今年度は近隣自治体への糸口を探ることしかできなかったが、引き続き取り組みを進めていく。

【安全かつ適切に業務を遂行するために】

利用者情報の共有を PC 内で行う取り組みが始まり、確認しながら進めることで無理なく情報共有の方法を定着させることができた。また、直接居室に行き、利用者や職員とコミュニケーションを図ることで、様子や状況を共有し、全体を把握するようにした。

【業務の見直しと標準化】

コロナウィルス感染症の扱いが 5 類になったことで、利用前 1 週間の体調チェックを廃止した。また、見学時の流れについてマニュアルを見直し、対応の標準化を図った結果、急な見学や対応もスムーズに行うことができた。

５．対外業務について

〈町田市〉

▸ネットワーク会議への出席(5 月・9 月・11 月・2 月)

・地域が一体となって支援対象児童等を支援していくための連絡会

▸地域との連携

・ふくし〇ごと相談会参加(7 月・10 月)

・堺地域子育て連絡会(6 月・9 月・1 月)

・町田市第 2 高齢者支センター(9 月)

▸子ども家庭支援課、新任・異動職員向け見学対応（5 月）

〈八王子市〉

▸ショートステイ・トワイライトステイ連絡会への出席(5 月・9 月・11 月・1 月)

八王子市内でショートステイ・トワイライトステイを請け負っている施設（こどものうち八栄寮、リフレここのえ、ひのみらい）と八王子市子ども家庭支援センタークリエイトとの連絡会。

▸各子ども家庭支援センターとの連携

〈世田谷区〉

▸定期連絡会

・世田谷区児童相談支援課との連絡会(8 月)

・世田谷区各子ども家庭支援センター情報交換会(10 月)

▸見学対応

〈その他 相談〉

・心理療法担当職員（地域支援）の相談業務として、施設訪問と里親宅家庭訪問を実施した。施設訪問は、自立援助ホームに月 1 回程度訪問し、ケース検討などを行っている。里親宅家庭訪問は、里親支援専門相談員に同行して、断続的に複数の家庭に訪問した。

・ひろばに参加している保護者やショートステイを利用している保護者からの要望を受けて、発達についての心配などの相談に心理療法担当職員が応じている。

５．2025 年度に向けて

ショートステイ利用者のニーズを考慮し、既に受託している自治体の枠を増やす必要性について自治体に働きかけていく。緊急利用の際、必要な情報共有がスムーズに行えるよう、関係機関や担当者との関係性の構築に努める。

妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない予防的な支援を目指し、地域子育て支援の質の向上に取り組んでいく。

以上